資料９

令和６年２月 17 日

芦屋市立美術博物館

2024 年度 事業計画書

（指定管理者）
小学館集英社プロダクション共同体

資料９

当グループは３期にわたり継続し「指定管理者」として運営を行ってまいりました。本年度第４期の初年度を迎え、社会教育施設の使命を全うするため、芦屋の文化の拠点として、本施設が今まで以上に発展し、これからの未来を見据えて、次世代へと人が誰もが生き生きと暮らすまちの実現に向けて取り組んでいきます。

芦屋市立美術博物館の展覧会としては、４月から６月に当館コレクションからコレクション特集「具体美術協会/芦屋」「アプローチ！アーティストに学ぶ世界のみかた」展を開催、ふたつのテーマで館蔵品による絵画魅力に迫ります。６月から８月にかけては、創立から 100 年の節目を迎えた今年に因み「創立 100 周年記念　信濃橋洋画研究所―大阪にひとつ美術の花が咲くー」展を開催、小出楢重、黒田重太郎等が創立した本研究所の特質と関西の洋画界に与えた影響を再検討します。また９月から 11 月にかけては、1965 年に最年少で具体美術協会会員となり、現在でも国内外で精力的に発展を続ける美術家「今井祝雄（仮称)」展を、11 月から２月は「芦屋の文化財発見―最新のヨドコウ迎賓館温室跡発見まで」そして「第 42 回　芦屋市造形教育展」と続きます。３月は、１日だけの展覧会「とあるひ　平井真美子（仮称)」、そして次年度まで継続する「コレクション展（仮称)」を開催します。

歴史資料展示室では、「常設展示室」として大きくリニューアルし、企画スペースは定期的に展示替えします。

資料９

１．指定管理者の概要

指定管理者名	小学館集英社プロダクション共同体
代表者名	株式会社　小学館集英社プロダクション 代表取締役社長　　都築　伸一郎
所在地	本　　社：東京都千代田区神田神保町２－３０　昭和ビル 関西支社：大阪市北区曽根崎新地２－６－１２　小学館ビル５階
電話番号	本　　社：０３－３２２２－９１００（代表） 関西支社:０６－６４８５－８０８６（パブリックサービス事業課）
ＦＡＸ番号	関西支社：０６－６４８５－８０８８
担当	運営管理：株式会社 小学館集英社プロダクション 維持管理：グローバルコミュニティ株式会社

２．個人情報保護

管理上知り得た利用者・関係者の個人情報を保護するために、「芦屋市立美術博物館及び芦屋市谷崎潤一郎記念館　個人情報保護マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

① 法令で認められている場合を除き、個人情報の第三者提供、開示を禁止します。
② 個人情報を取得した書類、パソコン、CD、メモリなどの媒体を許可なく外部に持ち出すことを禁止します。
③ 紙媒体での個人情報は、必要最小限の保管とするとともに、鍵付きのロッカーに厳重に保管します。
④ ホームページ、メールなどへのウイルス侵入を防ぐためセキュリティソフトの整備、定期的なネットワークチェックを行います。
⑤ 個人情報の収集時には、必要に応じて職員が説明を行います。
⑥ 個人情報の取り扱い業務を外部に委託する場合は、委託先と協議の上覚書を取り交わすなど、厳重な管理を行います。
⑦ 個人情報保護に関する研修を年１回以上実施し、定期的に職員が個人情報の取り扱いについて徹底する機会を設けます。
⑧ 個人情報保護に関する内部監査を実施します。

３．安全管理対策

利用者の安全を第一に考え、法令を順守した適切な内部管理を行うとともに、可能な限り危機が起こる前に予見し、危機の回避を図る方策と体制を整えます。「芦屋市立美術博物館及び芦屋市谷崎潤一郎記念館危機管理マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

① 緊急時の状況を想定した防災訓練、防犯訓練を行い、不測の事態に備えます。
② 避難経路の確保、非常時の避難器具、消火器具の作動確認を定期的に実施します。

③ 芦屋市、消防、警察等、関係機関との連携を密にし、防犯情報等の共有に努めます。
④ 利用者、周辺施設と連携した訓練を行い、地域ぐるみの防災・防犯体制構築を図ります。
⑤ 危機管理マニュアルは職員の周知徹底を図るため週１回の読み合わせを行い、状況に併せた改訂を重ねていきます。
⑥ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止につきましては、本年度も引き続き安全対策の最重要課題として、兵庫県、芦屋市との連携を取りながら対策を緩めることなく実施します。

４．研修

職員のスキルアップ、安全管理体制の徹底を図るため、定期的に研修を実施します。

研修名	対象	頻度
新人研修	新規採用者	入職時
個人情報保護・セキュリティ研修	全職員	年１回以上
接遇・マナー研修	全職員	年１回以上
避難訓練・防災訓練	全職員	年２回以上
防犯訓練	全職員	年１回
職務研修 ※業務に応じたスキルアップなど	各担当職員	職員の申請に応じて責任者が承認

５．その他

①地域、市民との連携

地域、市民、利用者と協同し、共に美術博物館及び谷崎潤一郎記念館を創り上げていくために下記の取り組みを実施します。

ⅰ）アンケート調査に基づく顧客満足度の向上

アンケート調査を引き続き実施分析し、市民をはじめ幅広い利用者により親しまれ、利用される美術博物館・谷崎潤一郎記念館を目指します。また回収率を上げるために受付での配布時のお願いや、アンケート記入場所の追加設置等、創意工夫して回収率の向上を目指します。

ⅱ）博物館実習の受け入れ

毎年、10 人以上の大学生の受け入れをしていますが、今後も学芸員育成のため、カリキュラムを充実し、広く募集します。例年、応募者が多数のため大学ごとに人数を割り振り不公平のないよう努めます。

＊2023 年度実績（2022 年は「機械設備等改修工事」のため実施せず。）

神戸大学・武庫川女子大学・甲南大学・近畿大学・同志社大学

ⅲ）職業体験（トライやる・ウィーク）

市内及び市外の中学生のトライやる・ウィークでの職業体験学習の受け入れをし、美術・博物・文学に関心のある若い世代に体験の場を提供します。

ⅳ）館だよりの発行

両館をより多くの市民に理解をいただくため、年１回、館だよりを発行します。

②収蔵品台帳の整備

館の収蔵品の状況把握と適切な管理のため、市と相談の上、収蔵品台帳の整備を引き続き行い、開館以来の未整理資料の管理改善、かつ運営上最善な収蔵管理体制を構築する為の方法も市と相談の上、共通の達成目標を達成すべく努力します。

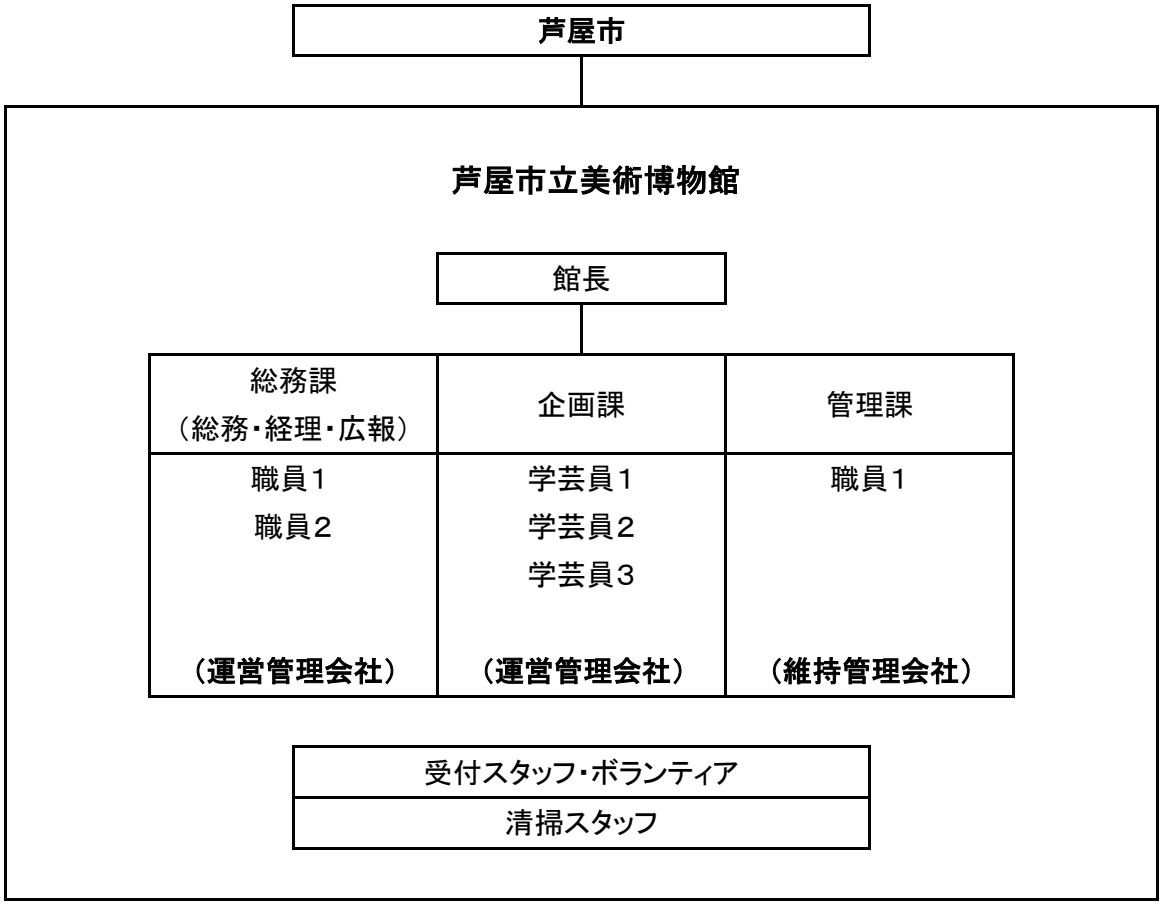
③館蔵品の調査・研究

収蔵品台帳の整備と並行して、館蔵品の調査・研究を実施します。

資料９

芦屋市立美術博物館

１．組織体制



２．施設職員体制

施設職員	館長　兼　事務局長　　：１名 総務課　　：２名 企画課（学芸員）　　：３名（美術２名、歴史１名） 管理課（防火管理者）　　：のべ１名（非常勤職員３名） ※ その他展覧会受付スタッフ、ボランティアは展覧会等に併せて配置
事務分掌	館長　兼　事務局長　　：館全体の総責任者 総務課　　：総務事務、経理、各種申請書管理、広報活動　他 企画課　　：展覧会・教育普及事業の企画・実施、作品の保存調査・研究、各種広報物の作成　他 管理課　　：施設、設備の維持管理、危機管理

資料９

３．芦屋市立美術博物館運営基本方針

美術博物館の設置目的・使命に基づいて、下記の項目に沿った管理運営を行います。

【設置目的】

美術及び歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供し、その教養の向上を図り、もって市民文化に寄与することを目的とする。

【使命】

(1)　美術部門と博物部門の共存
(2)　芦屋ゆかりの美術作品・歴史資料等の継承
(3)　市民参画・協働の促進
(4)　子どもへの教育
(5)　学習機会の提供

４.利用料金

利用料金は、条例に沿った下記の料金設定を据え置きとします。

① 観覧料

区分	個人	団体（20 人以上）	特別展示観覧料
一般	300 円	240 円	2,030 円の範囲内において教育委員会がその都度定める額
大学生・高校生	200 円	160 円	
中学生以下	無料		

② 特別観覧料

区分			
熟覧		特別観覧料（1 点 1 日につき）	300 円
模写、模造等			500 円
撮影	モノクローム	学術研究を目的とする場合	200 円
		出版等の収入が伴う場合	1,010 円
	カラー	学術研究を目的とする場合	400 円
		出版等の収入が伴う場合	2,030 円

資料９

③ 施設使用料

区分	使用料		
	午前 10 時から 正午まで	午後 1 時から 午後 4 時 30 分 まで	午前 10 時から 午後 4 時 30 分 まで
講義室	2,850 円	4,370 円	7,230 円
体験学習室	4,170 円	6,820 円	11,000 円

④ 駐車場使用料

時間	料金
1 時間以内	無料
1 時間を超えた場合	100 円／30 分

５．展覧会予定（別途年間予定表を添付）

「芦屋市立美術博物館運営基本方針」に基づき、企画・発信します。「周年事業」（本年度は本年度「創立 100 年記念　信濃橋洋画研究所―大阪にひとつ美術の花が咲く―」を開催し、市民共有の財産である当施設の館蔵品を様々な切り口から紹介する展覧会を企画しております。また子供たちが本物の作品に接し、感動を味わいつつ学ぶことができるよう 鑑賞ガイドやワークシートを作成し、子供にわかりやすく好奇心を引き出す手助けをしてまいります。

具体的な内容は、下記の通りです。（※展覧会名称は変更する場合があります。）

【第一展示室/第二展示室】

◇4 月 13 日（土）～6 月 9 日(日)　50 日間

コレクション特集「具体美術協会/芦屋」「アプローチ！アーティストに学ぶ世界のみかた」展

本展では２つの特集によって、当館コレクションを紹介します。

① 特集「具体美術協会/芦屋」

芦屋市立美術博物館では、1954 年に芦屋に結成された「具体美術協会」に属する作家の作品を多数所蔵しています。本特集「具体」の 1950 年代を中心に、彼らの作品や当時の資料を展示し「具体」の活動を紹介します。

② 特集「アプローチ！―アーティストに学ぶ世界のみかた」

アーティストは、世界に存在する数多の事柄から発想し、作品の題材として制作します。

本特集では蟻田哲、植松奎二、ハナヤ勘兵衛、三島喜美代らの作品を展示し、世界を見つめる彼らの視点と制作の手法に迫ります。

◇6 月 22 日（土）～8 月 25 日(日)　56 日間

創立 100 周年記念　信濃橋洋画研究所―大阪にひとつ美術の花が咲く―展

1924 年、小出楢重、黒田重太郎、鍋井克之、国枝金三が大阪で創立した信濃橋洋画研究所は、前年そろって二科会会員となった気鋭の画家が直接指導する洋画教育の場として、学生から会社勤めのものまで多数の受講生を集めます。1931 年に中之島洋画研究所と改称、1944 年まで続いた本研究所は多くの優れた画家を輩出し、関西洋画界の発展に貢献しました。本展では、本研究所で教え・学んだ画家約 20 名の作品と資料を展示し、指導と学びの実態、評判を呼んだ夏期講習会や研究所展の試みについて紹介します。創立から 100 年の節目に、本研究所の特質と関西の洋画界に与えた影響を、再検討する試みです。

◇9 月 14 日（土）～11 月 17 日（日）　56 日間

今井祝雄展（仮称）

今井祝雄（1946―）は、大阪市立工芸高校在学中の 1964 年に第 14 回具体美術展に初出品し、翌年に最年少で具体美術協会会員となりました。1966 年に第 10 回シェル美術賞で一等賞を受賞、同年 7 月にグタイピナコテカで個展を開催するなど、「具体」の新時代を担うメンバーの一人として活躍します。今井は「具体」を軸に活動を続ける中、常に新しい美術の動きの中に身を置き、絵画や立体作品にとどまらず、写真や映像など様々なメディアを用いた実験な作品を発表しました。本展は、国内外で精力的に発展を続ける今井の 60 年にわたる活動を多角的に紹介し、今井祝雄という作家を再検証する試みです。

◇11 月 30 日(土)～2 月 9 日(日)　55 日間

芦屋の文化財発見―最新のヨドコウ迎賓館温室跡発見まで―展

文化財とは、我が国の長い歴史の中で生まれ育ち、今日まで守り続けられてきた国民的財産をいいます。芦屋には金津山古墳や芦屋廃寺といった埋蔵文化財や、会下山遺跡やヨドコウ迎賓館などの重要文化財など、数多くの文化財が存在します。

本展では、埋蔵文化財からの出土品や、当館所蔵の屏風や近代建築物模型などの他分野にわたる資料を展示し、人々が守り受け継いできた芦屋の文化財の魅力を紹介します。

◇2 月 15 日（土）～2 月 23 日（日）8 日間

第 42 回　芦屋市造形教育展

芦屋市の就学前施設、小学校、中学校の子どもたちの作品を全館（歴史資料展示室を除く）にわたり展示します。

主催：芦屋市教育委員会、芦屋市造形教育研究会

◇3 月 1 日(土) 1 日間

とあるひ　平井真美子（仮称）

2020 年 11 月に当館で開催した「美術と音楽の 9 日間　rooms」へ音楽展示で参加した平井真美子氏が、2019 年末から約 2 年半“とあるひ”と題してピアノ短編曲を創作し、2022 年の夏、当館のピアノ「ベーゼンドルファー」で“とあるひ”を再記録した。この度、芦屋で始まった平井氏の音の時間を共有する一日「とあるひ」を開催します。

◇3 月 15 日(土)～3 月 30 日（日）(次年度 5/11(土)までの予定)

コレクション展（仮）

当館の美術館蔵品による展覧会。

【歴史資料展示室】

◇4 月 13 日（土）～３月 30 日(日)　240 日間

2023 年 4 月から歴史資料展示室は常設展示室となりました。芦屋市のプロフィール、地理的特徴、現在の住宅都市となった背景、古代の芦屋について、数多くの資料を通して紹介しています。企画展示スペースでは、特別展や時事的話題に関連する小企画を年に数回行います。昔の暮らしの道具や土器のハンズオン展示も併設しています。

６．講座・イベント等の予定（教育普及事業）

「芦屋市立美術博物館運営基本方針」で示されている「学習機会の提供」という使命に則り、幅広い世代に美術・歴史等に触れることのできる機会を提供します。
また、展覧会に連動した講演会やワークショップ等を盛り込み、芸術文化事業に対する理解を深めていただく機会を提供します。

○アートスタディプログラム　まなびはくルーム 2024

2020 年度から 2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため本プログラムの開催を見送りましたが 2023 年から再開しました。

引き続き、本年度も本プログラムを通して美術を学び発見する面白さ・楽しさ・難しさといった体験から、自己の既成概念を超えて様々な事柄を感じ、考える力を一層強め、より豊かな生活への一歩としていただけるようなプログラムを企画していきます。

本年度は、講座 3 回（具体美術協会関係、教育普及関係、デザイン関係等）ワークショップ系 3 回（美術家関係、フィールドワーク、絵画制作等）3 回、計 6 回を予定しています。

本プログラムでは、イベント参加毎に押印するスタンプカードを発行します（1 人につき 1 枚発行)。本カードスタンプを一定数集めた方には抽選でオリジナルグッズをプレゼント

するほか、カード提示により開催中の展覧会を団体料金で鑑賞できます。美術館活動を楽しんでいただきながらリピーター層の拡大を図っていきます。（カード保持者本人のみ。他の割引との併用不可）

７．自主事業　（あしやつくるば）

手作り品の販売やワークショップ、おいしい食べ物や古書の販売など、ジャンルを超えた様々な交流や体験を通じて、大人もこどもも楽しい時間を過ごすイベントです。その結果、美術博物館を通じ、市民だけでなく、幅広い世代・地域を問わない交流の場となり、当館がより身近な存在となることを目指します。また谷崎潤一郎記念館も参加することで、両館の相互の入館を促進します。

当該事業は以下の３点を目指し、実施します。

１．「つくる」ことから生まれる喜びや、発見を共有できる場の提供。

２．当館の芝生のお庭でお買い物や食事を楽しめる場。

３．年２回のイベントを継続実施し、当館の存在を認知してもらうこと。

本年度春は 5/11(土),5/2(日)、秋は 11/9㈯、11/10(日)　実施予定

８．富田砕花資料について

美術博物館に収蔵されている富田砕花に関する各種資料を用いて、富田砕花旧居で年間を通じて展示を行い、年１回程度展示替えを行います。

資料９